

授業実践のまとめ

小学校国語科 第6学年 単元名 説明文を読み、考えたことを話し合おう(全8時間)
 教材 説明的な文章(6年)

単元について

この単元では、小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編 第5学年及び第6学年「C読むこと」(1)ウである以下の内容を指導事項として、重点を置いて学習します。

指導事項：C読むこと(1)ウ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。

説明的な文章では、「事実と感想、意見などとの関係」や「文章全体の構成」などを基に、目的に応じて、書き手は自分の考えをより適切に伝えるために、どのように論を進めているのか、どのような理由や事例を用いることで説得力を高めようとしているのかなどについて考えをもつことで、論の進め方について考えることができるようにします。

本単元で使用した教材文は、段落ごとのまとまりがはっきりしているため、児童が文章全体の構成や筆者の主張、事例などを捉えやすくなっています。さらに、文章中に用いられている写真や図表などが、文章のどの部分と結び付くのかを明らかにすることによって、必要な情報を見付けたり、論の進め方を捉えたりすることができます。この教材文を用いて、児童が筆者の論の進め方や事例の挙げ方、図表などの用い方を捉えながら読み、筆者の主張を基に話し合うことで、自分の考えを広げることができるようにします。

1 単元の目標

- (1) 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。
[知識及び技能](2)イ
- (2) 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。
[思考力、判断力、表現力等]C(1)ウ
- (3) 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。
[思考力、判断力、表現力等]C(1)カ
- (4) これまでの学習や経験を振り返り、学習の見通しをもって粘り強く、論の進め方について考え、分かったことや考えたことを話し合おうとしている。
「学びに向かう力、人間性等」

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。 (2)イ	① 「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。 (C(1)ウ) ② 「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。 (C(1)カ)	① 粘り強く、論の進め方について考え、学習の見通しをもって分かったことや考えたことを話し合おうとしている。

単元の目標や評価規準の設定については、「『指導と評価の一体化』」のための学習評価に関する参考資料」を御参照ください。



3 単元の指導と評価の計画(全8時間)

※本資料では、1人1台端末を、端末と表記しています。

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	<p>○第3学年の総合的な学習の時間に学んだことを想起する。</p> <p>○本文を通読して、内容の大体をつかみ、自分たちの町における人々のつながりについて考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 単元冒頭にある扉のページや題名を基に、既習事項とつながらながら学習の見通しをもつことができるようにする。 教材文を読み、自分たちの町における人々のつながりを考えることができるようにする。 学んだことを生かし、自分たちの町における人々のつながりについて話し合うという言語活動を児童と共に設定する。 	<p>単元において、児童の学習状況を適宜把握する場面を設定します。ここでは、【記録に残す評価】のみを位置付けていますが、学習内容を確実に習得できるようにするため、【指導に生かす評価】を適宜行います。</p>
2	<p>○単元の学習課題を設定する。</p> <p>○単元の学習課題を基に、学習計画を立てる。</p> <p>○語句の意味や情報と情報との関係付けの仕方を確かめながら再読し、文章全体の構成について考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学級全体で話し合い、適宜、児童の意見を引き出しながら、学習課題の設定及び学習計画の立案を行うことができるようにする。 必要に応じて辞書等を活用できるようにする。 	
3	<p>○文章全体の構成を捉える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 形式段落を押さえ、意味段落の各部分の役割を考えたあと、文章全体の構成を考えることができるようにする。 	<p>【思考・判断・表現①】 端末*の記録・観察 ・目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしているかの確認</p>
4	<p>○文章の要旨を把握する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 文章全体の構成「序論－本論－結論」と事実と感想、意見などとの関係を押さえ、文章の要旨を把握できるようにする。 	
5	<p>○事例と主張のつながりから筆者の論の進め方について考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 3つの事例と筆者の主張は、どのようにつながっているかに着目して読み、筆者の論の進め方を考えることができるようにする。 	
6(本時)	<p>○図表などの用い方から筆者の論の進め方について考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 文章のどの部分と図表などが結び付くのかを明らかにすることによって、必要な情報を見付けたり、筆者の論の進め方を捉えたりすることができるようにする。 	<p>【知識・技能①】 端末の記録・スライド ・情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っているかの確認</p> <p>【思考・判断・表現②】 端末の記録・観察 ・文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げているかの確認</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度①】 端末の記録・観察 ・これまでの学習や経験を振り返り、学習の見通しをもち、自分たちの町とつなげて話し合おうとしているかの確認</p>
7	<p>○自分たちの町における人々のつながりについて考え、学んだことを生かしてスライドにまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 筆者の主張を基に自分たちの町における人々のつながりについて考えることができるようにする。 前時までに学んだことを踏まえ、自分の考えをスライド1枚にまとめることができるようにする。 	
8	<p>○学んだことを生かして、自分たちの町における人々のつながりについて話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えが広がった点は、スライドに付け加えることができるようにする。 	<p>【主体的に学習に取り組む態度①】 端末の記録・観察 ・これまでの学習や経験を振り返り、学習の見通しをもち、自分たちの町とつなげて話し合おうとしているかの確認</p>
	<p>○単元の学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> どのように学び、何ができるようになったのか、単元全体を振り返り、今後の学習や生活場面につなげて考えることができるようにする。 	

作成のポイント

①単元を通して身に付けさせたい資質・能力を明確にし、児童に単元の見通しをもたせる場面を設定します。

②単元で身に付けさせたい資質・能力を、「説明文を読み、考えたことを話し合う」という**言語活動**を通して身に付けられるように指導します。

③単元終末に単元の学習全体を振り返る場面を設定します。





単元の指導と評価の計画の立て方については、『**「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料**』や『**単元デザイン FIRST STEP**』を御参照ください。



4 本時の目標

目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。

5 本時の展開(6/8)

	学習活動	指導上の留意点 (○) と評価 (◇)	ポイント
導入	<p>1 前時までの学習を振り返り、本時のめあてを確認する。</p> <p>めあて 筆者はどのような図表などを使って説得力を高めているのか考えよう</p>	<p>○学習計画及び前時の学習内容を基に、教材文で用いられている図表などを確認することで、本時のめあてにつなげることができるようにする。</p>	<p>【導入の場面について】 学習計画及び文章全体の構成を一覧できるスライドを提示することで、児童が本時の「めあて」を主体的に考えることができるようになります。</p>
	<p>2 1つ目の事例の写真を基に、本時の学習活動の見通しをもつ。</p> <p>【実際に書き込む様子】</p> 	<p>○1つ目の事例において、写真が文章のどの部分と結び付くのかを考えることによって、必要な情報である「事例で筆者が伝えたいこと」を見付けられることを学級全体で確認し、本時の学習の見通しがもてるようにする。</p> <p>○文章と図表などの結び付け方を大型提示装置に提示し、確認することで、個別の活動につなげることができるようにする。</p> <p>→ 工夫1:文章と図表などを結び付け必要な情報を見付けるための手立て(p.4)</p>	
展開	<p>3 2つ目の事例のグラフと表について個人で考える。</p> <p>・文章と図表などが示された端末の画面上又はワークシートに書き込む。</p> <p>【端末の画面上で結び付ける様子】</p> 	<p>○2つ目の事例では、グラフと表が用いられていることを確認する。</p> <p>○2つ目の事例において、筆者がグラフと表を用いて何を伝えたいのかを考え、文章と図表などが示された端末の画面上又はワークシートに書き込むように促す。</p> <p>○ワークシートに自分の考えを書き込んだ児童には、端末のカメラで撮影するように促し、全体で共有できるようにする。</p> <p>→ 工夫1:文章と図表などを結び付け必要な情報を見付けるための手立て(p.4)</p>	<p>【話し合う場面について】 何を目的に話し合うのかを明確にした上で、自分で考えたことをペアや全体で話し合うようにします。</p>
	<p>4 ペアで話し合う。</p> <p>【画面を見せながら話し合う様子】</p> 	<p>○端末の画面を互いに示しながら話し合い、自分の考えを確かめることができるようにする。</p>	
	<p>5 全体で話し合う。</p> <p>・2つ目の事例について話し合う。</p> <p>【全体で共有する様子】</p>  <p>・2つの事例における図表などの使い方について比較する。</p>	<p>○発表する児童の端末の画面を大型提示装置及び各自の端末に提示することで、自分の考えと比較し、相違点を基に自分の考えを吟味できるようにする。</p> <p>○キーワードを板書することで、本時の学習のまとめに活用できるようにする。</p> <p>○2つ目の事例に用いられているグラフと表が、文章のどの部分と結び付くのかを明らかにすることによって、事例で筆者が伝えたいことを押さえることができるようにする。</p> <p>○1つ目と2つ目の事例の図表などの使い方を比較し、相違点や共通点に着目するように促すことで、児童が筆者の論の進め方を捉えることができるようにする。</p> <p>◇思①目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。 【端末の記録・観察】</p> <p>→ 工夫2:論の進め方について考えるための手立て(p.6)</p>	

終末	6 3つ目の事例を含めた文章全体における図表などの用い方を確かめる。	○3つの事例を踏まえて考えることで、図表などは、事例で伝えたいことをより分かりやすくし、筆者の論の説得力を高めていることを確認できるようにする。	[まとめの場面について] 本時の「めあて」に対応した学習内容の「まとめ」を行います。 [振り返りの場面について] 何について振り返ればよいかを明確に示し、本時の「振り返り」を行います。
	7 本時の学習をまとめる。	○全体で共有したことや、板書に示したキーワードを基に、本時の学習のまとめを書くように促す。	
	8 本時の学習を振り返る。	○本時で学習したことを振り返ることで、学習内容を再確認したり、次の学びや活動につなげたりすることができるようにする。	

6 本時における指導と評価の工夫

工夫1:文章と図表などを結び付け必要な情報を見付けるための手立て

学習活動2では、3つの事例のうち1つ目を取り上げ、学級全体で、写真が文章のどの部分と結び付くのかを考えることによって、必要な情報である「事例で筆者が伝えたいこと」を見付けられることを確認しました。そうすることで、児童が本時の学習活動のねらいや方法を理解し、活動の見通しをもつことができるようにしました。



筆者は、市民が主体的に取り組む3つの事例を挙げていましたね。まずは、1つ目の事例の写真の使い方について、みんなで考えてみましょう。筆者は、なぜこの写真を使っているのでしょうか？

【1つ目の写真(イメージ)】



写真の中に焼き物が写っていて、本文の中にも「焼き物が有名」と書いてあるからです。

リュックを背負った子供たちが写っていて、本文の中に「見学ツアー」と書いてあるからです。



なるほど。写真が本文のどの部分と結び付いているかを見るとよさそうですね。どのように、結び付いていますか。

【大型提示装置の画面(イメージ)】



写真のこの部分と本文の「焼き物」が結び付いていると思います(大型提示装置の画面上で写真と文章を線で結び付ける)。

ほかにもこの部分と「見学ツアー」は、結び付いていると思います(大型提示装置の画面上で写真と文章を線で結び付ける)。

～意見が続く～

写真が本文のどの部分と結び付いているかを考えると、様々な活動の内容を表す言葉とその活動の様子が分かる写真の部分が結び付いていました。そこから、筆者は、市民が主体的に活動している様子を伝えたかったのではないかなと思いました。

児童 A



なるほど！写真が本文のどの部分と結び付いているかを考えると筆者が事例で伝えたいことが分かりそうですね。みなさんも、自分の端末やワークシートで筆者が伝えたいことを考えてみましょう。

～児童は、実際に文章と図表などが示された端末の画面上又はワークシートで、筆者の伝えたいことを考える～

確かに、Aさんの言うように、写真の「市民が見学している」部分と本文の「見学ツアー」の部分から、筆者は、市民が主体的に活動している様子を伝えたかったのが分かるね。

そうか！写真の「案内している人」の部分と本文の「市民が中心」の部分から、筆者は、市民が主体的に活動している様子を伝えたかったんだね。



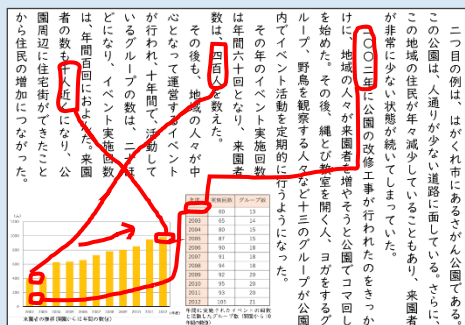
そうですね。写真が本文のどの部分と結び付いているかを考えると、市民が主体的に活動している様子を伝えたかったことが分かりましたね。では、2つ目の事例について個人で考えてみましょう。

学習活動3では、机間指導を行い、児童の学習状況を見取りました。児童Bのように、文章と図表などがうまく結び付けられていない児童が見受けられたので、その手掛かりや参考になるように、大型提示装置の画面一覧機能を用いて端末の画面を共有しました。そうすることで、ほかの児童の結び付け方を参考に、文章とグラフ等を適切に結び付け、必要な情報である「事例で筆者が伝えたいこと」を捉えることができるようにしました。



2つ目の事例の表とグラフの使い方について、個人で考えてみましょう。

～児童は個人で、文章と図表などが示された各自の端末の画面上又はワークシートで考える～



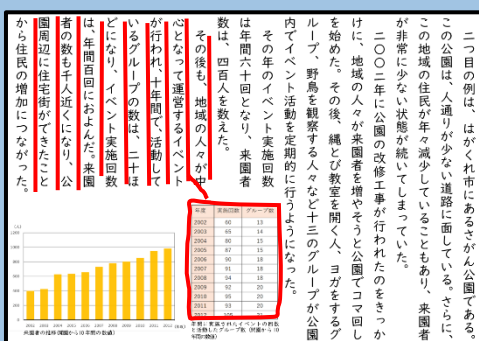
資料1 児童Aの書き込み内容

本文の数字とグラフの数字が結び付いているから…。筆者は来園者数が増えていることを伝えたいのかもしれないな。



児童A

Aさん(資料1)は、文章と図表などの同じ文言や数値などに印を付けたリ、線でつないだりして考えることができていな。



資料2 活動当初の児童Bの書き込み内容

うーん。結び付けてみたけど、これでいいのかな。



児童B

Bさん(資料2)は、段落全体と表全体を結び付けているな。本文のどの部分と結び付くのか、捉えることができていないな。画面一覧機能を用いてほかの児童の画面を提示してみよう。



考えている途中で困ったら、友達が文章と表やグラフをどのように結び付けているか、大型提示装置の画面一覧を見て、参考にしながら考えてもいいですよ。

【画面一覧機能で共有】

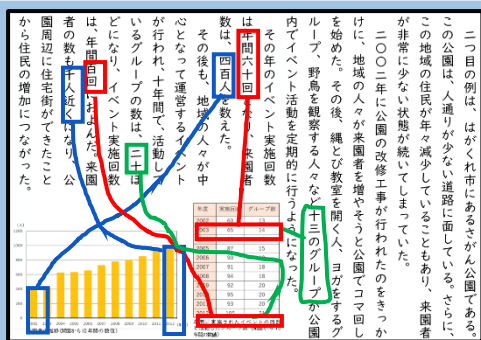


(画面一覧を見て)なるほど! Aさんは、もっと部分的に結び付けているな。私もそうしてみよう!



児童B

Bさんが、画面一覧を見ながら、うなずいているから、参考になっているみたいだな。ほかの児童も画面一覧を見て確認しているようだ。



資料3 友達の考えを見たあとの児童Bの書き込み内容

私は、Aさんを参考にして、部分的に結び付けて考えることができたよ。色分けしている友達の工夫も加えてみたよ。このように考えると筆者が伝えたいことは…



児童B

Bさんは、Aさんを参考にしたことで、必要な情報を見付けることができそうだ(資料3)。本時のめあての達成に近付いているな。



工夫2:論の進め方について考えるための手立て

「授業デザイン FIRST STEP」

学習活動5の後半では、学習活動1において確認したスライド(資料4)を基に、図表などの用い方に着目して読み、写真やグラフ、表を挿入したり、事例で伝えたいことを書き込んだりすることで筆者の論の進め方について考えることができるようにしました(資料5)。

文章全体の構成を一覧できるスライドを用いて学習することで、筆者がどのように論を進めているのか、どのような理由や事例を用いて説得力を高めているのかを、視覚的に捉えることができるようにしました。その際、ICTを活用し、プレゼンテーションソフトのスライド上で、書いた文章を移動したり、図表などを挿入したりしながら、1単位時間ごとに情報を追加していきました。単元を通して、1枚のスライドで文章全体の構成及び論の進め方について整理し、捉えることができるようにしました。

事例と主張とが つながる言葉 文章全体を通して使われている 中心となる言葉	結論 ⑮⑭	本論 ⑬⑫ ⑪⑩ ⑨⑧ ⑦⑥ ⑤	序論 ④③②①
	筆者の主張 地域の人がつながり、互いを思いやり、支え合う仕組みを作ることで、自然災害への対策も、可能になってくるのではないだろうか。	・ 泉都町の取り組み 町の人々が中心となり「子育てサロン」を作った 町外からの移住者が増加 地域の交流が増える	・ さがん公園の取り組み 地域の人々による活動 来園者数等の増加、住民の増加につながる

第五時 事例と主張のつながり

資料4 第5時終了後のスライド

図表などを用いて筆者が事例で伝えたいこと 文章中で用いられている図表など	結論 ⑮⑭	本論 ⑬⑫ ⑪⑩ ⑨⑧ ⑦⑥ ⑤	序論 ④③②①
	筆者の主張 地域の人がつながり、互いを思いやり、支え合う仕組みを作ることで、自然災害への対策も、可能になってくるのではないだろうか。	・ 泉都町の取り組み 町の人々が中心となり「子育てサロン」を作った 町外からの移住者が増加 地域の交流が増える	・ さがん公園の取り組み 地域の人々による活動 来園者数等の増加、住民の増加につながる

第六時 図表などの使い方

資料5 第6時終了後のスライド

7 授業者の声

今回、〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」の領域において、説明的な文章を教材として、第6学年で授業実践を行いました。本時の授業では、「文章のどの部分と図表などが結び付くのか」を明らかにすることによって、必要な情報を見付けたり、論の進め方を捉えたりすることができるように、指導と評価の工夫を行いました。

まず、文章と図表などを結び付け、必要な情報を見付けるための工夫として、学習活動2では、写真が本文のどの部分と結び付くのかを考えることによって、必要な情報である「事例で筆者が伝えたいこと」を見付けられることを学級全体で確認しました。さらに、学習活動3では、全員の端末の画面を共有することで、個人で考える際の手掛かりや参考としました。それにより、児童が「文章のどの部分と図表などが結び付くのか」を明らかにし、そこから必要な情報である「事例で筆者が伝えたいこと」を見付けることができました。

次に、論の進め方について考えるための工夫として、学習活動5では、児童が文章全体の構成を一覧できるようにしたスライドを使用しました。図表などの用い方に着目して読み、文章全体の構成を一覧できるようにした1枚のスライドに写真やグラフ、表を挿入したり、事例で筆者が伝えたいことを書き込んだりすることで、児童が、文章全体の構成を基に、筆者の論の進め方を視覚的に捉えることができました。

今後も、単元を通して、児童に身に付けさせたい資質・能力を明確にした上で、児童の実態に応じた指導と評価の工夫を取り入れた授業づくりに取り組んでいきたいと思っております。